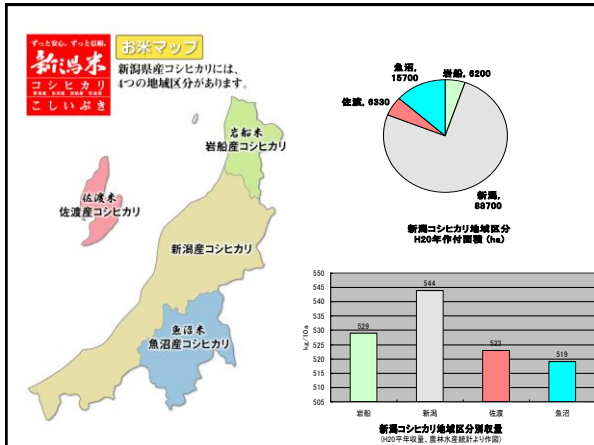
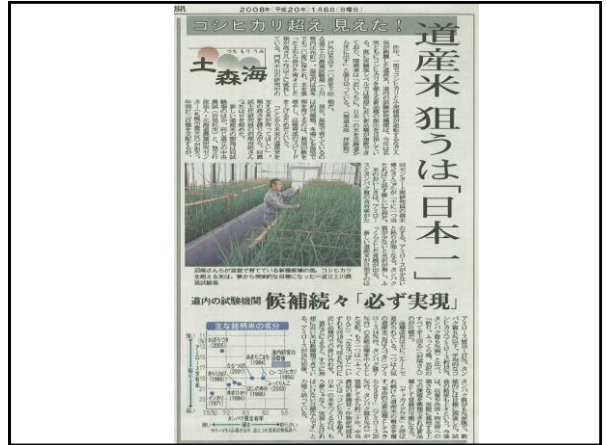


美味しさ日本一の北空知米生産をめざす
農家・関係機関の覚悟と生産環境

★ この北海道で、美味しさ日本一は達成可能な目標であろうか？。目指すは魚沼産コシヒカリ級の米生産である。一昔前なら、「北空知の米作り農家はとうとう狂ったか？」と、言われたに違いない。

★ 夢のような目標は、①平成15年リリースの「ふっくりんこ(晩生の中)」、20年の「ゆめぴりか(中生の早)」そして、これらに練く品種を、②生産者の技術、③こころざし、④北空知の関係機関の連携とリーダーシップ ⑤恵まれた生産環境を生かすことが出来れば達成可能と思う。

★ なお、これからの稲作は、資源効率において日本一の米生産を、目指すべきである。このことは収益確保並びに環境保全型農業やイエスグリーン認証にもつながる。



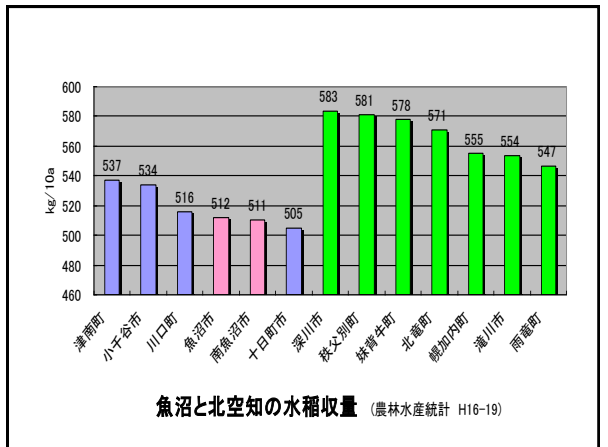
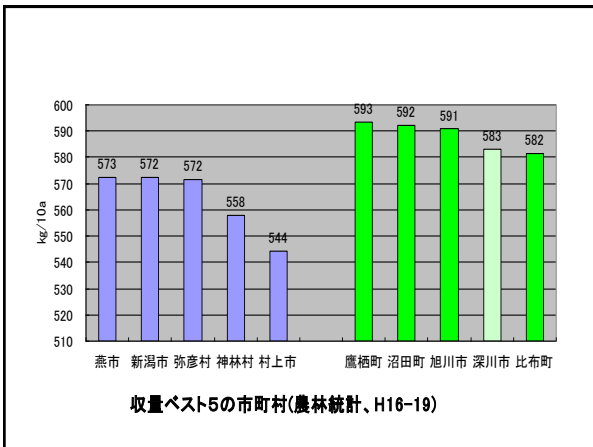
越後線沿線 2008/9/17

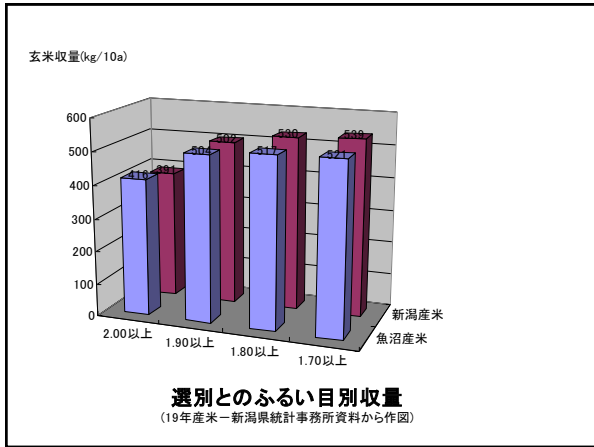


越後線沿線 西燕駅近く コシヒカリ 2008/9/17



南魚沼市 直江兼綱生誕の坂戸城址



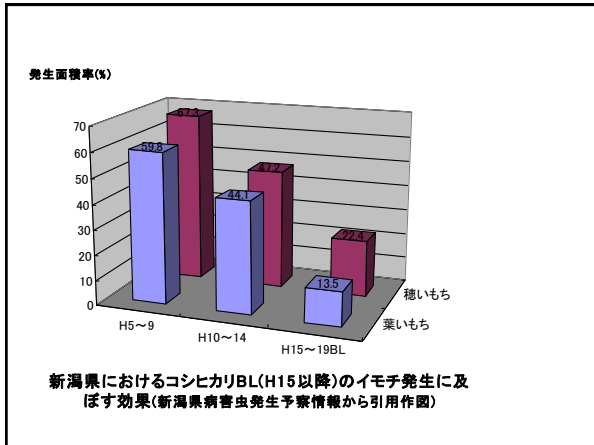


北海道と新潟県の水稲収量の今昔(農林統計、kg/10a)

	昭33~37	昭45~49	昭57~61	平12~16	平20~24
新潟県	432	482	529	533	—
北海道	391	440	486	490	—
道内の主要作付け品種	農林20号(早) 栄光(中) 巴まさり(晩)	イシカリ(中) しおかり(中) ユウカラ(晩)	イシカリ(中) キタヒカリ(中) みちこがね(中)	きらら397(中) ほしのゆめ(中) ななつぼし(中)	ゆめびりか(中) ななつぼし(中) ふっくりんこ(晩)

コシヒカリの育成: 昭和31年福井農試育成、平成16年以降はBLコシヒカリ、新潟農試育成

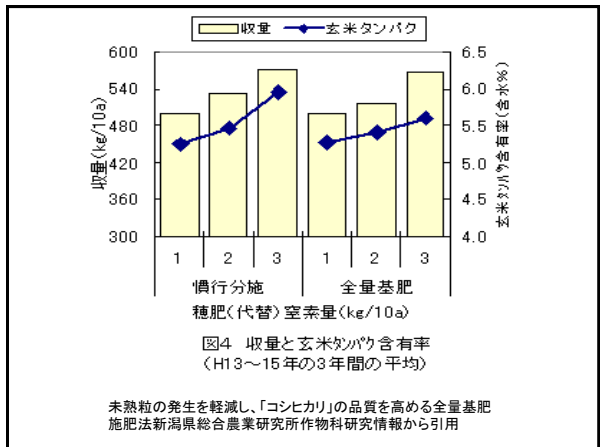
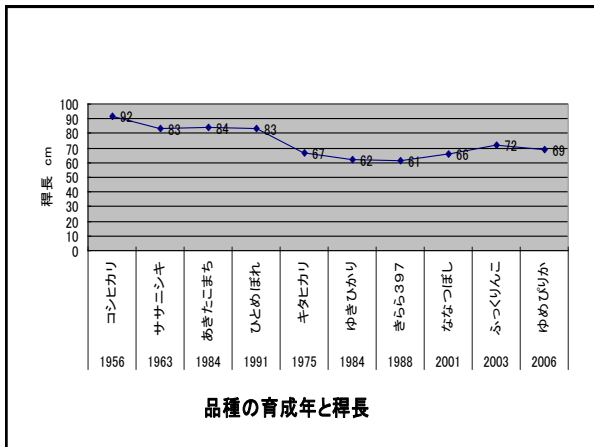
新潟県の平均収量は、コシヒカリが登場の昭和30年代以来一貫して、北海道平均を40kg/10a高い、この間北海道では、栄光→イシカリ・ユウカラ→キタヒカリ・みちこがね→ゆきひかり→きらら397→ほしのゆめ・ななつぼし、と数多くの新品種を作りこんできた。



コシヒカリと道内品種との比較

品種	稈長(cm)	穂長(cm)	収量(kg/10a)
コシヒカリBL	91.0	18.1	497
コシヒカリ	90.2	18.0	511
ふっくりんこ	73.0	16.1	544
ななつぼし	74.0	16.2	548
きらら397	69.0	15.8	557
ゆめびりか	65.0	16.5	628
ほしのゆめ	65.0	15.7	588

注1 コシヒカリは新潟県農業改良普及センター15カ所平均、平成15年
注2 道内品種は平成15年1月ふっくりんこ成績書(道南農試)、平成20年「上育453号」成績書(上川農試)



日本穀物検定協会 食味ランキング

品 種	地区	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18
コシヒカリ	岩船	A	特A	A	A	A'	A	A	特A
	下越	A	A	A	A	特A	A	A	A
	中越	A	A	特A	特A	特A	特A	A	特A
	魚沼	特A	特A	特A	特A	特A	特A	特A	特A
	上越	特A	A	特A	A	A	A	A	A
ななつぼし	空知						A	A	A
きらら397	空知	A					A	A'	A

米どころ新潟は日本海沿岸、日本一の大河信濃川流域、県境の山脈と米の生産環境は大きく異なり、食味は地域や年次によってバラツキが見られる。しかし、魚沼地域に限れば食味評価は一貫して特Aを維持している。

過去3年の産地品種銘柄別価格動向(通年平均比較) 単位:円/60kg

産地	品種	銘柄	19年産			18年産		17年産		価格対比	
			A	B	C	A	B	A/B	A/C		
北海道	きらら397	確認米	14,534	14,125	13,606	102.9%	106.0%				
北海道	ほしのゆめ	確認米	14,815	14,227	13,731	104.1%	107.9%				
北海道	ななつぼし	確認米	14,138	14,065		100.5%	-				
宮城	ササニシキ	確認米	14,691	15,500	15,810	94.8%	92.9%				
宮城	ひとめぼれ	確認米	14,458	15,507	15,809	93.2%	91.5%				
秋田	あきたこまち	確認米	14,490	15,477	15,853	93.6%	91.4%				
新潟	コシヒカリ	一般	18,624	18,763	19,382	99.3%	96.1%				
新潟	コシヒカリ	魚沼	24,864	26,791	25,972	83.5%	95.7%				
新潟	コシヒカリ	岩船	18,053	18,983	19,866	95.1%	90.9%				
新潟	コシヒカリ	佐渡	18,440	19,919	20,034	95.5%	92.0%				

注1:産地品種銘柄別に「確認米」と記載されているものは、「コメ価格センター」業務規則第7条第1項に規定する「種子・栽培履歴確認米」である
注2:落札加重平均価格は、銘柄ごとに売り手から申出があった包蔵代(紙袋)、奨出金、消費税相当額を含む価格です。資料:コメ価格センター入札取引結果を基に作成、コメネットホームページより

平成19年産米穀の卸売・小売価格(全国平均)

産 地	品 種	卸売価格	小売価格	マージン(%)
北海道	きらら397	3,197	3,599	12.6
北海道	ななつぼし	3,200	3,498	9.3
秋田	あきたこまち	3,476	4,126	18.7
山形(内陸)	はえぬき	3,322	3,847	15.8
福島	ひとめぼれ	3,378	4,092	21.1
岩手	ひとめぼれ	3,398	4,023	18.4
宮城	ひとめぼれ	3,504	4,148	18.4
茨城	コシヒカリ	3,471	4,015	15.7
長野	コシヒカリ	3,540	4,466	26.2
富山	コシヒカリ	3,654	4,366	19.5
福島	コシヒカリ(金津)	3,708	4,843	30.6
新潟	コシヒカリ(一般)	4,323	5,088	17.7
新潟	コシヒカリ(魚沼)	5,663	7,205	27.2

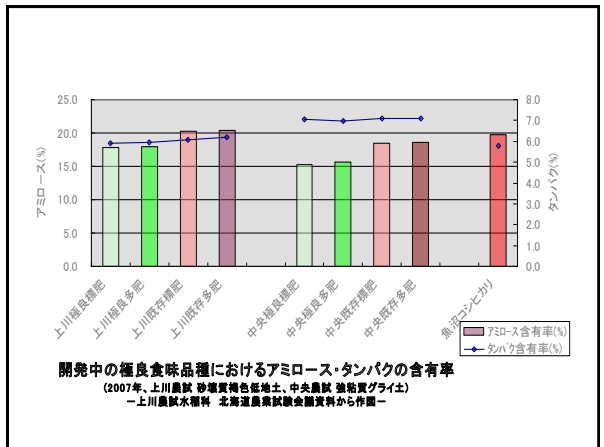
注1 単位:精米、円/包装・消費税込み10kg
注2 資料:米ネットから引用(1207月分の調査)

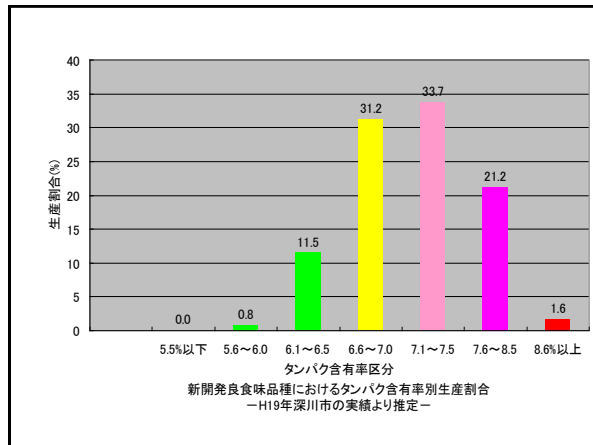
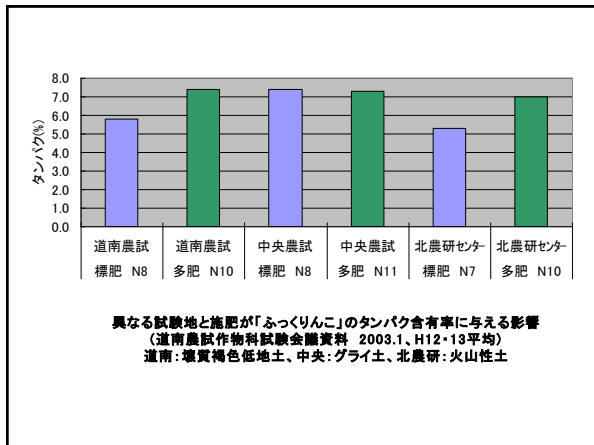
水稻化学肥料一窒素一の施用量の推移 (農水省 米生産費調査) (kg/10a)

地 域	昭和45	昭和50	昭和55	昭和60	平成2	平成8	平成12	平成16
全 国	10.0	10.0	10.2	10.9	9.7	8.7	7.7	7.2
北海道	9.3	9.1	10.4	11.3	9.9	9.0	8.4	8.9
東 北	10.9	10.3	10.5	11.5	10.2	10.1	8.2	7.5
北 陸	10.3	10.5	10.6	10.8	9.3	7.5	5.8	5.3

全国の水田土壌面積割合(%)

	火山性土	台地土	褐色低地土	灰色低地土	グライ土	泥炭土
北海道	5.1	5.3	17.8	17.8	25.5	23.1
東北	16.4	6.3	4.4	4.4	31.5	13.1
北陸	7.8	6.8	1.1	1.1	58.1	0.7
関東	22.9	2.7	1.5	1.5	32.8	6.4
東海	6.1	15.7	0.6	0.6	33.7	1.1

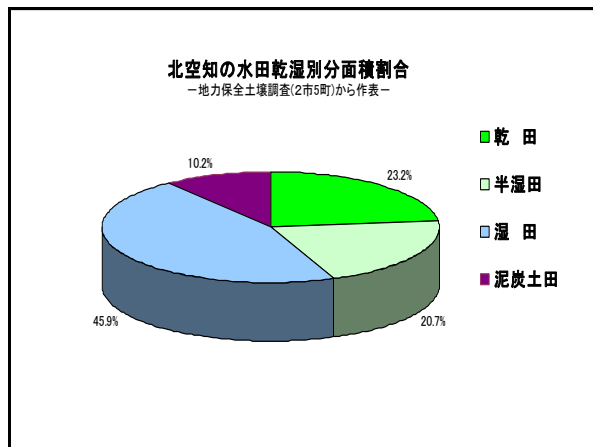




深川市内水田土壌の培養窒素レベルと低タンパク米生産目標

レンジ(mgN/100g)	分析点数	同左比率(%)	食味目標	達成の難易
5.5以下	73	2.0	魚沼コシカカリ	容易
5.6~8.5	156	4.2	魚沼コシカカリ	可能
8.6~11.5	352	9.4	新潟コシカカリ	可能
11.6~14.5	590	15.8	新潟コシカカリ	やや困難
14.6~17.5	839	22.4	新潟コシカカリ	かなり困難
17.6~20.5	780	20.3	—	—
20.6以上	971	26.0	—	—
計	3741	100.0		

培養窒素: H16~18、北海道農業近代化技術研究センター分析



- 販売と人材育成・地域支援に関わる課題と戦略
- 販売に関わる人材育成: 米穀店、卸売り、ホクレン等での研修
 - 魚沼地域の農協への派遣、人事交流(JA・自治体)
 - インターネット販売、米情報の発信(JA・自治体)
 - 稲作農家の技術力向上(稲作経営研究会、講習会)
- 低タンパク米生産に関わる個別技術と戦略
- 窒素の施肥法: 量・位置・時期
 - 栽植密度、苗質(成苗の一つ覚えは誤り)
 - 移植時期(出穂時期)
 - 透水性改善、土づくり
 - 傷害型冷害の回避(土地改良区)
 - 登熟期の水管理(土地改良区)
 - 刈取り時期、収穫乾燥・調整

水稲栽培は、上流の水源→途中のダムやため池・灌漑施設→水田地帯の用排水施設に始まり、水田・畑・集落配置などの土地利用、ほ場整備や土地改良、そして、栽培関連組織、産米の乾燥・調整・貯蔵・精米・集荷出荷に関わる施設、などの先人の遺産と歴史ある巨大な地域システムである。

それぞれの組織が互いを信頼し合い、美味しい米作りに参画することの喜びを共有し、日本一の米作りに汗を流した時に、この壮大な計画は成就しよう。

けっして、事の正否を個々の米生産農の意欲とか意識の問題とかに矮小化してはならない。